

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	八王子市立子安保育園
-----	------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

回るもの・動くもの

<テーマの設定理由>

1歳児の子どもたちは入園当初から、天井に付く扇風機が稼働するとそれを見て指差し、手振り、身振りで回っていることを保育者に伝えようとする姿が見られていた。また、普段の遊びからも積み木や玩具の鍋蓋、フライ返し、タイヤなど、手に取るものを回したり転がしたりと、じっくりとその遊びを楽しむ姿があったため、このテーマ設定を行った。

2. 活動スケジュール

5～6月 回るもの探し・水の動き

7～9月 水遊び・プール遊び 水の力で回るもの、動くものを楽しむ。

9月～ 楽器遊び 回して、動かして音を鳴らしてみる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・室内における探究活動ができるような、転がる、回る、音が鳴るといった玩具(サイレンカー、ハンドスピナー、独楽など)
- ・戸外において自然の力(風力、水力など)を用いて動きが出る、風車や水車。また、水の流れ、水滴の動きが視覚的に分かるような樋がついた水遊び玩具
- ・楽器(鈴、マラカスなど)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

子どもたちが扇風機に興味をもったことをきっかけに、「回るもの・動くもの」をテーマに活動を展開した。まずは園内で回るもの・動くもの探しを行い、子どもたちが自ら回せる風車や手持ち扇風機、シリコン製スピナーなどを用意して興味を深めていった。

探究を続ける中で、子どもたちの関心は乗り物へと広がり、電車や車にも興味を示すようになったため、散歩に出かけて実際に見られる機会をつくった。保育室には、ボタンを押すと音や光が出て走らせられる車・電車の玩具も準備し、好きな時に遊べる環境を整えた。

複数の子どもが玩具棚の上で車や電車を走らせて遊ぶ姿が見られたため、棚の2段目に遊べるスペースを確保し、線路や道路のシールを貼って環境設定を行った。すると、次第に電車を線路の上に走らせて遊ぶ姿が増えてきたため、保育室内にも線路の玩具を常設するようにした。

また、夏季には水を使って回るもの・動くものを発見したり楽しんだりできるよう、水遊びやそれに関連する玩具を提供した。

さらに、乗り物のサイレンや走行音に興味広がったことから、音や光にも関心をもつようになった。そこで、音が鳴る車や鈴、タンバリン、カスタネットなどの楽器を保育室に置き、子どもたちがいつでも手に取って楽しめるよう環境を整えた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

回るもの・動くもの探しでは、鍋の蓋や皿、車のタイヤ、フライ返しなど、身近なものが自分の手で回ることに子どもたちが気づき、繰り返し回して楽しむ姿が見られた。一人の子がじっくり遊んでいると、周囲の子も興味をもち、真似をしながら一緒に回す姿が広がっていった。

散歩では、乗り物を見つけると、初めは言葉にならない「あー」「うーうー」といった声で保育士に知らせていた。しかし、日々の応答的な関わりを重ねる中で、「救急車きた」「タクシーきた」と二語文で伝えようとする姿が見られるようになった。

夏季のプール遊びでは、「スブラッシュツイステイングかめ」という玩具を提供すると、子どもたちは自分から触りに行き、手で行くくる回したり、プールの中に一緒に入れて楽しんだりしていた。また、プールのスティックを半分にした水樋をプール横に設置すると、ペットボトルで水を汲んで樋に流したり、ボールを転がしたりしながら、水が流れる様子を繰り返し楽しむ姿が見られた。

乗り物への興味が高まるにつれ、サイレンの音や楽器遊びへと関心が広がった。楽器を提供し、音楽を流すと、鈴やタンバリンを鳴らしたり、歌ったりしながら音に合わせて身体を動かして楽しんでいた。慣れてくると、自分から好みの曲をリクエストし、楽器遊びだけでなく、歌ったり踊ったりすることも楽しむ姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもの興味・関心に沿って保育を行ったことでじっくり遊びこむ姿が見られた。変化していく子どもたちの興味に気づき、環境構成をしたり、遊びを提供したりすることの大切さに改めて気づいた。今後も一人一人の興味・関心をくみとり、じっくり遊びこめる環境を整えながら保育していきたい。